

【アフリカ・中南米など世界の農家からこだわりの花を集めた EC サイト「世界の花屋」をオープン。デザイナーとして前田有紀さんも参加】

切り花製品などの農水産品や化学品の輸入を手掛ける株式会社グリーンボックス（東京都豊島区、代表取締役小林邦威、以下「グリーンボックス」）は、アフリカ、中近東、中南米やアジアなど世界中の農家からこだわりの生花を集めた EC サイト「世界の花屋」をオープンします。

サイトオープンに先立ち、ケニア共和国・南アフリカ共和国・イスラエル国など各国の駐日大使館の協力も頂き、9月27日、代官山 T-SITE（東京都渋谷区）にてオープン記念イベントを開催しますので、是非ともご来場ください。



【サイト設立に至る背景】

アフリカや中南米などの海外諸国において、花卉産業の持つ社会的意義（雇用機会創出など）は年々高まっています。アフリカ・ケニア共和国を例にとると、対日貿易の輸出産品第一位は切り花（主にバラ）となります。実際、我が国におけるバラの輸入において、輸入第一位はケニア共和国です。（別添参考資料参照）

世界各国にはまだ日本の消費者で広く知られていない美しくユニークな花がたくさんありますが、こうした事実はまだまだ認知されておりません。そこで、グリーンボックスは、「花と、世界を、旅しよう！」を本ブランドのキャッチコピーに、月ごとに取り上げる国を決め、各国の珍しく素敵な花々を、その国の暮らし、更には生産ストーリーなどを交えながら、日本の20代～40代の女性をターゲットに新たなライフスタイルとして提案させて頂きます。尚、本ブランドの商品デザインは、元テレビ朝日アナウンサーで現在はフラワーアーティストとして活躍する前田有紀さんが監修します。本ブランドのサイトオープンの第一弾として、10月1日より、「AFRICAN BEAUTY」をテーマに、南アフリカの草花を用いた商品をリリースする予定です。

【コメント】

○ケニア共和国 S.K.マイナ駐日特命全権大使コメント

この度、グリーンボックスと前田有紀さんによる「世界の花屋」という画期的なフラワーショップ、そしてオープニングイベントを代官山 T-SITE にて開催されることに心からお祝い申し上げます。

ケニアの花は、日本の花卉業界において非常に重要な役割を果たしております。私は、グリーンボックスが、ケニアの花の輸入に大変寄与（日本が輸入するケニアの花全体の約3割をグリーンボックスが占める）されている事実を大変歓迎します。



ケニアは世界でも実績のあるバラの輸出国であり、実際、バラをはじめとする花卉産業は、ケニアの就業、さらには国民総生産（GDP 74.41 億 US ドル:2017 予測）に大きく貢献しています。

今後も「世界の花屋」を通じて、ケニアのバラがより多くの日本の消費者のもとに届くことを期待しております。

○南アフリカ共和国 マンリー・バーナード駐日経済参事官コメント

「世界の花屋」オープンおめでとうございます。

南アフリカというと、ライオンやキリン等動物をイメージされると思いますが、実は、世界有数の植物多様性地域でユネスコ世界遺産に登録されている『ケープ植物区保護地域郡』をはじめ「花の楽園 (Floral Kingdom)」として知られ、22,000 種以上の花が咲き誇っています。首都プレトリアは、70,000 本にも及ぶジャカラランダの花が街路樹として植えられ開花期の 10-11 月には、街が藤色の花で染まります。存在感抜群のキングプロテアは、南アフリカの国花です。フィンボスは南アフリカの固有種であり、お馴染みのデイジーやガーベラも、南アフリカ原産です。花卉栽培産業は、1920 年代オランダからの移民によって始められ現在もオランダや英国へ輸出されています。日本は南アフリカ第 3 位の輸出相手国であり、日本にとっても南アフリカは第 4 位の輸入相手国です（※）。

「世界の花屋」を通じ、そんな南アフリカの悠久の大地に思いを馳せ、南アフリカの花々と共にある生活をお楽しみ下さい。※別添参考資料参照



○イスラエル国 ノア・アッシャー駐日経済公使コメント

イスラエルを訪れたことの無い大半の人は、イスラエルが花咲く国であると聞くと驚かれるのではないのでしょうか。イスラエルは砂漠が大半を占める国ですが、ドリップ灌漑を始めとする農業最先端技術の開発研究と、あらゆる問題に対して解決策を見つけ出そうとする国民性が、実り豊かなイスラエルを作り上げています。日本でイスラエルの美を探索出来る場があるのは誠に喜ばしい事であり、「世界の花屋」オープンのお祝い申し上げると共に、躍進されることを願っております。



○前田有紀さんコメント

南アフリカから輸入されたネイティブフラワーとの出会いは、花の仕事の世界観を大きく変える出来事でした。見た目のユニークさ・美しさに加えて、丈夫で長持ち。多くの方々に笑顔にする力がある花だと気がつきました。それ以来、新鮮な驚きの詰まった世界の草花の魅力をもっと多くの人に伝えたいと思うようになり、今回の「世界の花屋」のデザイン監修を手がける運びとなりました。

私がグリーンボックスさんを通じて出会った農家さんは、花や自然が大好きで、誇りを持ってお仕事をしています。こうした農家さんの表情やストーリーを交えることで、日本の方々がより世界の草花を身近に感じ、花を飾るきっかけの一つとして楽しんでもらいたいと思います。



○株式会社グリーンボックス専務取締役 小林邦宏コメント

当社は花卉業界に参入して 2 年ほどではありますが、これまで多種多様なビジネスを通じて培ってきたグローバルネットワークを活かして世界中から美しい草花の発掘・市場投入を行う一方、これらの素晴らしい草花を、如何に消費者の皆さんのニーズに沿ってお届けできるのか、日々検討を続けてきました。

今般、ロンドンおよび東京にて多様な花のある暮らしをプロデュースされてきた前田有紀さんのサポートを頂き、このイメージをより大きく、そして具体的なカタチにできる新ブラン



ド、「世界の花屋」をスタートさせていただく次第です。アフリカをはじめ世界中の高品質の花々を皆様のお手元に届けて参りますので、今後の展開に是非ともご期待ください。

【「世界の花屋」オープニングイベント詳細】

日時：9月27日（火曜日） 10:00-16:00

場所：代官山 T-SITE GARDEN GALLERY（蔦屋書店内）（URL：<http://top.tsite.jp>）

内容：南アフリカよりプロテア生産者、ブライアン・ミッシェル氏が来日し、前田有紀さんとのトークセッションおよび南アフリカの草花でスワッグ作りを行います。

（ワークショップで手作りしたスワッグはお持ち帰り頂けます）

イベント詳細 URL：<http://top.tsite.jp/lifestyle/lifetrend/campaign/36978550/>

ワークショップ開催時間：10:00～11：00／14:00～15：00

定員 15 名、1 人 5,000 円（税込）

※ワークショップの時間含め、ご来場・見学は無料です。

【世界の花屋ウェブサイト情報】

URL：<http://www.sekainohanaya.com>

ウェブサイト公開日：2017年9月19日（予定）

商品販売開始日：2017年10月1日

※商品の事前販売受付は、本日9月19日より承ります。

【株式会社グリーンパックス会社概要】

本社住所：東京都豊島区南大塚 3-20-6 大塚 FT ビル 4F

代表取締役：小林邦威

TEL：03-5396-8851

FAX：03-5396-8852

URL：<http://www.greenpacks-corp.com>

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社グリーンパックス 花き営業部 担当：吉井（よしい）・杉本（すぎもと）

TEL：03-5396-8851

FAX：03-5396-8852

E-Mail: info@greenpacks-corp.com

【参考資料】

1. ケニア共和国における対日輸出産品

第一位：樹木・植物（切り花含む）（24.4%）

第二位：スパイス・コーヒー・茶（22.9%）

第三位：チタン鉱（19.4%）

※JETRO データより

2. 我が国におけるバラ（切り花）の輸入国毎のシェア（金額ベース）

第一位：ケニア（10.5 億円=43%）

第二位：韓国（3.3 億円=14%）

第三位：エクアドル（2.5 億円=10%）

（総額：24.2 億円）

※2016 年輸入通関統計より

3. 2016 年日本の切り花の輸入相手国・輸入金額（その他分類）

第一位：中国・台湾（924,582 千円）

第二位：オランダ（566,420 千円）

第三位：コロンビア（377,577 千円）

第四位：南アフリカ（339,830 千円）

第五位：オーストラリア（269,109 千円）

※Trade Map より

4. 2016 年南アフリカ共和国からの切り花商品輸出先・輸出金額

第一位：オランダ（691,158 千円）

第二位：英国（463,484 千円）

第三位：日本（339,830 千円）

第四位：中国（134,392 千円）

第五位：サウジアラビア（107,600 千円）

※Trade Map より

以上